

医学・生物学研究のためのプロレゴメナ

科目責任者 Wolfgang Roland Ade

学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

先進国においては生活環境の変化や医療の発展により、平均寿命は延びたが生活習慣病や悪性新生物が増加し、医学研究にとっては焦眉の急の問題となっている。このような状況下において、医学研究へのアプローチに関してどんな要因がどのように関与し、加えて研究課題の選択と研究の実行を左右する事項を考察する。なお、現状記述に終わるのではなく、研究現象の背後に存在する様々な要因の同定にも努め、医学研究の成就と有用性を高める環境に関しても討議する。

II. 担当教員

Wolfgang Roland Ade (医学部)

III. 一般学習目標

医学研究への興味を呼び起こすために、その背景にある要因を理解できる能力を身につける。

IV. 学修の到達目標

- 1) 医学研究に関して情報を収集して整理し、それらの評価ができる。
- 2) 医学研究に関与する諸々の因子を述べ、それらの背景を指摘できる。
- 3) 発展途上国・準先進国・先進国で医学研究が対面する課題を把握・理解できる。
- 4) 優れた研究者になるための論理性と情報処理能力を発揮できる。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	4	15	水	4	オリエンテーション	Wolfgang Roland Ade
2		22	水	4	医学研究への入門	Wolfgang Roland Ade
3	5	13	水	4	「Art」としての医学研究	Wolfgang Roland Ade
4		20	水	4	「Science」としての医学研究	Wolfgang Roland Ade
5		27	水	4	医学研究における文化的因子の総論	Wolfgang Roland Ade
6	6	3	水	4	民族・社会体制・言語・地理的および経済的条件・宗教的および世俗的要因の医学研究への影響	Wolfgang Roland Ade
7		10	水	4	学問・歴史等の医学研究への影響	Wolfgang Roland Ade
8		17	水	4	発展途上国と準先進国における医学研究	Wolfgang Roland Ade
9		17	水	5	先進国における医学研究	Wolfgang Roland Ade
10		24	水	4	急劇的な状況の変貌における医学研究への影響	Wolfgang Roland Ade
11	7	1	水	4	将来の研究者への期待	Wolfgang Roland Ade

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

講義中の発言・予習・復習レポート等 50%

最終レポート 50%

VII. 教科書・参考書・A V資料

講義中に必要に応じて配付します。

質問への対応方法

講義中いつでもどうぞ。それ以外は事前に日独連携推進室へ予約してください。内線番号2153

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

メールまたは個人相談で対応する。

X. 求められる事前学習，事後学習

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XI. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）